

## FLORA of KOCHI

No. 51

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ タンポポ調査・2025 高知県 編

「タンポポ調査」は、身近な植物であるタンポポを調べ、地域の自然度を測る市民参加型調査です。タンポポ調査は、自然破壊や環境汚染などが社会問題となった高度経済成長期の1970年代、誰もが親しみを感じるタンポポについて種類（在来か外来か）と分布を調べることで、自然環境への人間の影響の強さや変化を知ろうと、大阪ではじまりました。以降、5年ごとに継続的に調査が行われ、2010年には初めて高知県も参加し、西日本19府県で調査が行われました。

前回の「タンポポ調査・西日本2020高知県」調査では、コロナ禍の影響を受けつつも、762人の方々が参加し、10,091サンプルが集まりました。4回目となる今回の調査は、「タンポポ調査・2025高知県」として、新たに「農地の耕作状況」や「地面の状態」といった調査項目を追加し、高知県独自の調査を行うことにしました。得られた結果は、西日本の17府県で行う「タンポポ調査・西日本2025」と情報共有していきます。

## 今回の調査で注目する5つの項目

## ① タンポポの種類と生育環境に関係はある？

農地の耕作状況や地表面の状態を調べましょう

## ② 希少タンポポを再確認しよう

前回の調査では、中山間地域でキビシロタンポポやクシバタンポポ、かや場でツクシタンポポといった希少なタンポポが見つかっています。5年経ってどう変化したのでしょうか？

## ③ カンサイタンポポは高知県在来？国内帰化？

県内の分布をていねいに調べましょう

## ④ キビシロタンポポはどこまで分布する？

これまで大豊町と中土佐町、梶原町で見つかっています。他の地域でも見つかるかも！？

## ⑤ 広がっている？増えている？外来タンポポ

その黄色いタンポポ、アカミタンポポが在来総苞型外来種かも。タネや総苞をていねいに見ていきましょう



キビシロタンポポ



ツクシタンポポ



クシバタンポポ



セイヨウタンポポ



アカミタンポポ



在来総苞型外来種

## タンポポ調査特設ページを開設！

1~2週間ごとに更新します。進捗状況をデータや地図でご確認ください。調査用紙やチラシもこのページからダウンロードできます。

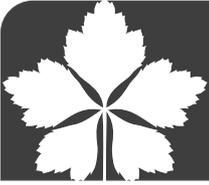
特設ページはこちらから→



検索 牧野植物園 タンポポ調査

【タンポポ調査についてのお問合せ】  
高知県タンポポ調査事務局  
tanpopo\_kochi@makino.or.jp





# 高知県の植物 ニュース

## ■ 偶然の発見 ヒメキシセワタ *Matsumurella tuberifera* (Makino) Makino (シソ科) 文：田城 光子・佐田 博子・酒井 泰一 写真※：田城 光子・佐田 博子

2023年4月、スゲ属の調査で訪れた県西部の海岸に近い道を走行中、車窓から気になる植物が目に入りました。日当たりのよくないヒノキ林の林縁の、柔らかい腐葉土が崩れそうな路肩で、僅か2 m×6 mほどの範囲に隙間なく群生しています(写真1-1)。よく見るとピンクの小さな花が咲いていました(写真1-2)。

花はオドリコソウをととても小さくしたような印象でした。草丈は大きな個体でも10 cmほど、葉は対生し、基部は切型からややさび型、3対から5対の鋸歯があります。下の方の茎葉は小さく、上の方ほど大きく、茎には下向きの少し縮れたような毛が生えています。数本採集してみると、地下部から白い根の先端に、小さくて白い丸いものがついて出てきました。

初めて見る植物でしたが、図鑑で調べてみると、白い球茎をつける特徴があること、花の形などから、比較的容易にヒメキシセワタと同定できました。さらに、



写真1-3 ヒメキシセワタの果実？(5月7日)

「高知県レッドデータブック 2022 植物編」をみると、高知県の絶滅種(EX)であることもわかりました。

最初に確認した4月20日には、花が少しだけ咲いていて、同定の決め手になりましたが、26日に再度訪れてみると、もう花がありませんでした。5月上旬には萼の中に果実のようなものもみられましたが、熟したものはありませんでした(写真1-3)。

この植物の生活史を知るためと、生育状況や環境の変化の有無を確認するために、その後も定期的に現地訪問を続けました。すると6月には葉が黄色になっており、7月に入ると地上部はすでに枯れていました。



写真1-1 現地の様子(4月20日)



↑ 地表に転がる球茎



写真1-2 ヒメキシセワタの花(4月20日)



← 球茎の表面は毛で覆われる

写真1-4 ヒメキシセワタの球茎



写真 1-5 自生地 (5月7日)

8月の調査では、地上部は全く見られず、イノシシに掘り返されたような跡があり、また大雨で表層の土壌が流出したのか、白い球茎が地表にごろごろと転がっていました (写真 1-4)。

発見後、周辺の林床をかなり広範囲に捜してみましたが、この一角でしか生育は確認されませんでした。地上に現れている期間が短いとはいえ、やはり自生地、個体数ともに少ない植物ではないか、と思われまます。



写真 1-6 写真 1-5 と同じ場所 (7月19日)

うれしい発見は偶然にあるものです。ヒメキセワタも、そのような状況で見つかりました。これからも、偶然の出逢いを大切に、調査を続けたいと思います。

※写真 1-1~1-2

【引用・参考文献】

高知県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2022, 高知県レッドデータブック

2022 植物編 .p.41. 高知県林業振興・環境部環境共生課, 高知県.

米倉浩司, 2017, シソ科ヒメキセワタ属. In 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・

木原洋 (編), フィールド版改訂新版日本の野生植物II 初版第1刷,

p.409-410. 平凡社, 東京

## ■ ネコノメソウ *Chrysosplenium grayanum* Maxim.

文・写真：坂本 彰

ネコノメソウは「高知県レッドデータブック 2022 植物編」で絶滅危惧 I B 類 (EN) とされている希少な植物です。その植物が 2022 年の春、日高村から土佐市にかけての低山歩きの際、佐川町の棚田跡で全く偶然に見つかりました。それをきっかけに、旧土佐山田町から佐川町にかけて棚田跡を調べると、「芋づる式に」新産地が確認されました。次々に新産地が見つかった要因は、ネコノメソウが似たような環境に生育しており、生えていそうな場所の予測が立てやすかったことにあります。新たに確認された生育地は香美市土佐山田町 (佐野・大平、船谷)、いの町 (大内)、佐川町 [加茂、乙 (荷稻)], 土佐市 [谷地、高岡町丁 (東谷)] の各地区で、ほとんどが低山の谷あいにある棚田状の水田跡あるいはワサビ田跡と推測される場所です。また佐川町小谷地の生育地は、新産地ではないものの、1889 年 5 月に牧野



写真 2-2 棚田跡で群生するネコノメソウ (2022 年 3 月 30 日)

富太郎博士が採集したと思われる場所で、実に 133 年ぶりの再発見となりました。

ネコノメソウの類縁種としてヤマネコノメソウ *C. japonicum* (Maxim.) Makino があります。両種はよく似ていますが、ネコノメソウは葉が対生するのに対し、ヤマネコノメソウは互生であることから、識別できます。また、ネコノメソウは別名ミズネコノメソウと呼ばれるように、水たまりや流水辺などを主な生育地としています。

これまで確認されているのは、県中央部の棚田跡とその周辺ですが、それ以外の地域での発見が期待されます。

【引用・参考文献】

高知県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2022, 高知県レッドデータブック

2022 植物編 .p.126. 高知県林業振興・環境部環境共生課, 高知県.

米倉浩司・梶田忠 (2003) 「BG Plants 和名-学名インデックス」 (YList),

<http://ylist.info> (2024 年 2 月 16 日閲覧)



写真 2-1 花期のネコノメソウ。淡黄緑色でよく目につく (2022 年 3 月 29 日)

# information

## ■ 令和6(2024)年度上半期 分類学セミナー・研修会などのお知らせ

上半期の分類学セミナー・研修会を次のとおり開催します。参加ご希望の方は、資料の準備などがありますので、必ず事前にお申込みください。オンラインで受講できる回もありますので、直接会場までお越しいただくのが難しい場合など、ご利用ください。

### 【申込先】

メール：floraofkochi@makino.or.jp  
電話番号：088-882-2723(事務局直通)  
088-882-2673(標本庫直通)  
※土日祝日を除く 9:00-17:00  
FAX 番号：088-882-8635(代表)

### 調査ボランティアガイダンス

4月14日(日) 10:00～11:30 定員：30名

場所：牧野富太郎記念館 本館 映像ホール  
(オンライン同時開催)

内容：分布調査の説明、植物園の活動紹介、安全講習

対象：令和元(2019)年以降に調査ボランティアに登録された方

※ご希望の方はガイダンス終了後 12 時までの間、標本庫を見学いただけます。

### 分類学セミナー

#### シダ植物(中級)

7月7日(日) 10:00～12:00

定員：20名

講師：堀 清鷹(牧野植物園研究員)

場所：牧野植物園 植物研究交流センター  
1階 キッズラボ

#### ギボウシ属植物(中級)

6月21日(金) 10:00～12:00

定員：50名

講師：矢原 徹一氏\*(一般社団法人九州オープンユニバーシティ)

※都合により講師が変更になることがあります

場所：牧野富太郎記念館 本館 映像ホール  
(オンライン同時開催)

### 初心者のための研修会

#### 図鑑の使い方研修(屋内)

8月24日(土) 10:00～12:00/13:30～15:00

各回定員：8名

内容：標本庫で新聞にはさまった植物を、図鑑や比較標本を使って同定します。

#### 草原生の植物を見分ける(屋外)

9月28日(土) 10:00～12:00

定員：10名

場所：高知市皿が峰

講師：比嘉 基紀氏(高知大学教育研究部自然科学系理工学部門講師)

内容：草原に生える植物を観察しながら、見分けるポイントを学びます。

\*ボランティア登録者ご本人は、窓口でボランティア登録証をご提示いただくと研修・セミナーや園内学習の際には無料で入園できます。

### <セミナー・研修会・調査などに参加される際の注意事項>

セミナーや研修会中に写真を撮影します。撮影した画像は牧野植物園の年報および広報媒体等に掲載させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

### ナルトサワギク防除活動参加者募集

各回定員：30名

集合場所：芸西村琴ヶ浜 和食川河口臨時駐車場

6月16日(日) 8:00～10:00

申込締切：6月10日(月)

11月18日(月) 10:00～12:00

申込締切：11月11日(月)

※小雨決行・荒天中止

※参加人数によってはウチワサボテン類の除去作業も行います

### 生物多様性保全活動が始まります

今年度重点調査市町村の津野町にある天狗高原では、天候の関係で春の山焼きができない年が増えてきており、草原生の希少植物が少なくなっています。

過去に希少スミレ類が確認されていた範囲で、環境を整えるため低木の伐採、草刈りをしていきます。皆様是非ご協力ください。活動は11月上旬を予定しています。

### ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の職員が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定が難しい種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも可)にするか、新鮮なうちにお持ちください。

植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで下記番号で受付しています。

植物相談：088-882-2723

### ■ 編集後記

本号では、偶然の出逢いによって見つかった種についてを田城光子さん、佐田博子さん、酒井泰一さんに、少ないと思われていた種が、実はたくさんあったというご報告を坂本彰さんに、それぞれご執筆いただきました。2つともとてもうれしいお話でした。ありがとうございました。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



高知県立 牧野植物園  
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

〒781-8125 高知市五台山 4200-6  
TEL:088-882-2601(代表)  
FAX:088-882-8635  
https://www.makino.or.jp/

【本号の内容についてのお問い合わせ】  
分布調査事務局  
(floraofkochi@makino.or.jp) まで